

地球温暖化問題への対応に向けたICT政策に関する研究会 評価対応WG（第1回会合）

1. 日 時：平成19年10月3日（水）14：00～16：00

2. 場 所：三田共用会議所大会議室A（3階）

3. 出席者

(1) 構成員（敬称略、五十音順）

安藤亨（KDDI（株））、石井晃（日本放送協会 代理：大西一範）、岩崎哲（松下電器産業（株））、小林英樹（（株）東芝）、高橋正登（（株）東京放送）、津田邦和（NPO法人ASPインダストリーコンソーシアムジャパン）、中山憲幸（日本電気（株））、西隆之（（株）日立製作所）、西史郎（日本電信電話（株））、野田健太郎（日本政策投資銀行）、端谷隆文（富士通（株））、森俊介（東京理科大学）、山田英二（（株）NTTデータ）

(2) 総務省側

藤本情報流通高度化推進室長、野中情報流通高度化推進室課長補佐、中村情報流通高度化推進室振興係長

4. 議 事

(1) 開会

(2) WG主査挨拶

(3) WG構成員の紹介

(4) 議題

① 研究会（第1回会合[平成19年9月26日開催]）の結果報告

② WGの進め方について

③ ICTによる環境負荷低減事例の募集について

④ その他

(5) 閉会

5. 議事概要

(1) 開会

(2) WG主査挨拶

森主査より挨拶があった。

(3) WG構成員の紹介

(4) 議題

①研究会（第1回会合[平成19年9月26日開催]）の結果報告

資料WG 1-2-①②③④⑤に基づき、事務局側より説明を行った。

②WGの進め方について

資料WG 1-3に基づき、事務局側より説明を行った。

③ICTによる環境負荷低減事例の募集について

資料WG 1-4に基づき、事務局側より説明を行った。

②③に関する構成員からの主な発言は下記の通り。

- ・ICTの導入は環境のためではなく、効率化・合理化のためである。ただ、そういった事例だけだとビジネスの拡大によりCO₂排出量が増加してしまう。そこで、ファクタや原単位で見るのが良いのではないか。
- ・CO₂絶対量の削減事例だけを集めるというのは難しいし、事例はないのではないか。もちろん生産性が向上し、さらに環境に優しくなるのが好ましいが、ICTによりどのような効率化が図れたかという情報も必要だろう。
- ・今後のトレンドに焦点を当てて検討するという切り口はどうか。例えば、CO₂排出量の増加要因として、今後はスマートフォン、中小企業におけるサーバの増加、ネットワーク利用の進展によるルーター等ネットワーク周辺機器の増加などが考えられる。逆に、低減要因は低消費電力型のサーバの導入、データセンタでの空調に関する新技術、あるいはハードディスクの無いパソコン、テレワーク等が期待される。
- ・新しい技術に関連する事項は、技術開発WGとの連携も考えていく必要がある。
- ・生活が便利になるとエネルギー消費に伴うCO₂排出量が増加するという点は明言すべきだろう。
- ・親会の要望に関しては、WGの進行状況を親会と共有して調整していく。最も大きな要望は、結果をわかりやすく簡単にまとめる、ということである。あれもこれもあります、というのでは理解されない。
- ・WGでの検討内容に加え、リバウンド効果をどれだけ入れるか、セキュリティのように安心・安全に役立っているが、環境に対しては負荷をかけてしまうソリューションへの取組、社会的なインフラとしての扱い、分かりやすい概念を打ち出すなど親会からの要望があるが、限られた期間の中で検討するのは難しいと思われるが、どこまで対応するのか。
- ・親会では検討の視点を指摘されたもの。調査研究会としては、期間が限られているので、その視点でできるだけ対応をする。
- ・ICTによるビジネスの拡大、効率化をどう捉えるかが課題である。オフィスや店舗では、店舗を改装してその際に空調を改装すると、売上が増加し、効率も上がる。分母を揃えることが必要だろう。

- ・ I C Tの導入の効果はコスト削減あるいは売上拡大なので、どちらに対しどの程度の効果があったのかを聞けるようなアンケート項目を作れば良い。
- ・ アンケートの際、削減したものを絶対量で聞く方法と削減量（%）を聞く方法が考えられる。オフィススペースでも一人当たりの面積で聞いたほうがいいのかもかもしれない。
- ・ 数字を出すのであれば、削減量が少ないのでやめておこうという企業もあるかもしれない。
- ・ アンケートデータをどう使うかによって、聞くべき項目は異なる。例えば、I C T全体でどのくらいの効果があるかを推計するのであれば全体の規模と絶対量が必要。
- ・ 1次調査は大まかな規模感が得られれば良いのであれば、簡単なもので十分だろう。1次調査である程度の情報が欲しいのならば、それなりのものを作らないといけない。
- ・ 収集する事例については、企業だけでなく学校なども含めて募集したい。また、業種も限定せず、どこでも可とする。
- ・ アンケート項目にはコストとそれに伴うアウトプットがどう変化したかをいれてほしい。
- ・ 病院でも電子カルテや受付のシステム自動化などはI C Tによる効率化の例である。
- ・ I C Tを導入する以前のデータが出るかは重要であり、無いと変化が分からない。しかし、当社で検討した際にはデータが無いことが多かった。
- ・ 過去に無い新しいI C Tサービスはどう評価するか。例えば、今はパブリックコメントの募集をW e bを通じて行うが、過去にわざわざ多くの人に手紙で送ったかというのと、考えにくい。これまで世の中に無かったサービスが過去にあったらどうするかを検討するのは難しく、手間がかかる。
- ・ I C Tの導入前と導入後で何が変わったのかについて見る指標が必要ではないか。また、足りない情報は評価対応WGで調査してカバーするのはどうか。具体例を収集して議論するのがこの会議の目的であるので、数字の調査であれば他の業界団体のものを参照しても良く、アンケートではできるだけ具体的な事例を集めていって、この評価対応WGで評価をしていきたい。

④その他

- ・ アンケート等に関するコメントがあれば、10月12日までに事務局までメールにて送付する。
- ・ 事務局より次回会合の予定が説明された（別途メールにて開催案内を送付する）。

(5) 閉会

以上